令和３年度第５回茨城県総合計画審議会

日　時：令和４年３月23日(水)13時30分～
場　所：茨城県庁舎５階　庁議室

○司会（深澤計画推進課長）
それでは、定刻でございますので、ただいまから、茨城県総合計画審議会を開会いたします。
委員の皆様方には、年度末のお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。
本日の司会を務めさせていただきます計画推進課長の深澤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
なお、本日は、染野委員、田宮委員につきまして、ご欠席という連絡を受けております。
配付資料につきましては、事前にデータ等を送付させていただいておりますほか、画面でも共有させていただきたく存じます。
それでは、初めに、吉田会長からご挨拶をお願いいたします。
○吉田会長
本日は、年度末の大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。
オンラインの参加の方がたくさんいらっしゃいますが、今日は第５回目ということで、最終の予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。
これまで、コロナ禍ということもありまして、今日も過半の方がオンラインですが、完全なオンラインでやっていただいたり、あるいは一部オンラインとか、そういう形でいろいろ工夫していただいて今日までたどり着きました。どうもありがとうございます。
この総合計画ですが、第２次計画ということで、４つのチャレンジに基づいて県の政策を打ち出しているという県の有り様がある程度、今日来られているマスコミの方も含めまして、県民の方にご理解いただいたのかと思いますが、第２次としてそれを加速させるようなご意見を委員の皆様方からたくさんいただきました。おかげさまで、かなり安定した政策運営の在り方が示されているのではないかと思います。
それから、２点目ですが、これは、今日おいでいただいている沼田委員はじめ、いろいろな方々からご意見を出していただきましたが、総合計画を県民の自分事にするという大目標が第１期の時もありましたし、今回の改定でもありましたが、そうした中で、実際に県民がこの計画を自分事として感じるための一つの取組として、幸福度指標といったものを打ち出させていただきました。要するに、幸福度というものを県民にどういうふうに認識していただくべきなのか、あるいは、この指標をきっかけに取組をどう進めていただくのかという狙いが込められておりまして、様々な指標についてご議論いただいて、今日のような成案になっているということでありますので、改めて感謝申し上げます。
本日の審議会では、最終的な意見交換、あるいは確認をしていただいた上で、大井川知事に答申をさせていただくことになっておりますが、答申に当たっては、幸福度指標について、県民の理解を図ることにより、更なるチャレンジに取り組む機運を醸成していただきたいとか、４つのチャレンジを加速するような取組をぜひ県を挙げて行っていただきたいということをお願いしようと思いますが、県の職員も含めて、私どもの審議会の委員の皆様もこれを牽引するような役割を仰せつかっておりますので、策定した後も、支援や理解、あるいは応援をいただきたいと思っております。
委員の皆様方には、本日までご尽力いただいた御礼を申し上げますとともに、計画の推進に当たりましても、引き続きのご理解とご協力をいただきたいと思います。

簡単ではございますが、最後に際しましてのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○司会（深澤計画推進課長）

ありがとうございました。

それでは、これからの進行を吉田会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○吉田会長

それでは、議事に入りたいと思います。

本日は、先ほど申しましたように、知事への答申が予定されておりますので、今から14時ぐらいまでを目安に審議を終了したいと思っております。

今回示された答申（案）では、第４回の審議会を含めまして様々なご意見をいただいています。メーリングリストでも確認の問い合わせなどを結構いただきましたが、そういったものを含めまして、ほぼ全て修正されていると思います。

それでは、事務局から、前回からの修正点を中心に説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○深澤計画推進課長

ご説明させていただきます。

資料の茨城県総合計画答申（案）につきましてご説明させていただきます。

資料をご覧ください。

第４回審議会におきまして、委員の皆様方からいただきましたご意見を踏まえ、修正を行っております。

前回お示ししました答申（案）からの修正点を中心にご説明させていただきます。

第１部の将来構想及び第２部の計画推進の基本方針につきましては、前回資料から大きな変更はございません。

続きまして、第３部の基本計画でございます。

おめくりいただきまして、63ページをご覧ください。

清山委員より、政策15の自分らしく輝ける社会につきまして、女性が働ける環境づくりは貧困率を下げることにつながるため、ＳＤＧｓ目標１に位置付けられるのではないかというご意見を踏まえ、同政策にＳＤＧｓ目標１のマークを追加いたしました。

また、68ページ、69ページでございます。

同じく清山委員より、誰もがいつでも保育園に入れる状況が大事であるとのご意見を踏まえまして、成果の２番目、それから、課題の２番目、施策（２）の主な取組③につきまして、記載の修正を行ったところでございます。

次に、第４部の挑戦する県庁への変革につきましては、前回資料から大きな変更はございません。

続いて、参考資料のところでございます。

106ページからの６の主要指標一覧につきまして、前回の審議会後に、吉田会長から、複数の指標について、より県民に分かりやすい表記ができるのではないかとのご意見をいただき、修正を加えております。

詳細につきましては、参考資料の委員からの主な意見と対応状況の資料をご覧おきいただきたいと思います。

それから、114ページの欄外におきまして、主要指標等の選定の考え方と、結果として重複している指標の番号について記載をさせていただきました。

全体を通しては、三浦委員より、写真の紹介文につきまして、表記を統一してはとのご意見をいただきましたので、そのご意見を踏まえ、記載の修正を行ったところでございます。

説明につきましては、以上でございます。

○吉田会長

ありがとうございます。

今確認いただいたように、前回の意見について修正を施していただきました。

せっかくですので、これから14時ぐらいまでご意見をいただきたいと思いますが、まず、前回、たくさんご意見をおっしゃっていただいた清山委員、今、説明をいただきましたが、68ページあたり、待機児童の問題についての表記が年間を通じてという意味合いが少ないのではないかということで、「年間を通じて待機児童を解消するため」といった課題について改めて書き加えていただきました。それ以外にも、指標の取り方などもありましたが、清山委員、いかかですか。

○清山委員

全く問題ありません。ありがとうございました。きれいに課題をまとめてくださったし、成果のところもきちんとしていると思います。ありがとうございました。

○吉田会長

ありがとうございます。

ということで、前回のご意見は主にそこの部分だったと思いますが、特に計画ができた後のことが大事だということは常々皆さん方から言っていただいているところです。庁議で決定してから新年度がメインになろうかと思いますが、これから都合４年間ぐらい、この計画に基づいて、新しい政策が生み出されたり、あるいは充実させたりということをお願いしたいと思いますが、その辺も含めまして、要望、あるいはご意見がございましたらお願いしたいと思います。

今回、会場の方は、私を入れて４人です。残りの方はオンラインですが、オンラインの方でも会場の方でも結構ですので、特にこれからの総合計画の運営に関することを中心にご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

オンラインの方で何かありますか。感想でも結構ですし、あるいは苦労話でも結構ですが、何かありましたらお願いします。

では、会場の方でも、もう一回、清山委員でも結構です。お願いします。

○清山委員

元気で明るく成長できる、活力をもたらすという視線と、それから、もう一方で、様々な人たちがそれぞれの幸せを日本一実現できるようにという温かいまなざしと両方を持った良い計画になったのではないかと思っております。ぜひその双方の視線を生かして、中間チェックなども進めていただき、実効性を持った計画になるといいなと思っています。

頑張って実現をしていただきますようお願いいたします。

○吉田会長
　ありがとうございます。
　中村委員、いかがですか。
○中村委員
　非常にすばらしいものにまとまったなと思っておりまして、皆様、ありがとうございます。
　一つだけ、今回、私自身も幸福度指標の在り方が非常に難しかったなと感じておりまして、これから数字を達成すればいいということではなくて、せっかく指標ができたわけですから、県民が茨城にいてよかったとか、幸せだなと感じられるように、今後、この辺を重点的に何らかで考えていけるとか、モニタリング、フィードバックしていけるような在り方であってほしいなと思っております。
　以上です。
○吉田会長
　ありがとうございます。
　特に中村委員は、福祉とか、ケアラーの話とか、今年、県もケアラー条例ができたりしていますが、そのあたりも含めて、何か補足いただければ。
○中村委員
　福祉というのは、今、特に医療も介護も人材不足が一番大きなテーマでありますし、指標という面でも、この前もお話ししたように、人材にクローズアップされています。それは必要なことですし、大事なことだとも思います。
　福祉というのはオンライン作業はできませんし、本当に人が人を支えていくという仕事なので、そういう面で、人材の確保とか育成の面を充実していただくというのは本当に重要なことだなと思っております。
　ただ、それだけではなくて、ケアラーもそうですが、地域の人々が、人と人とがつながって地域福祉ができていくという施策がさらに広がっていくことを私としては期待したいと思っております。
○吉田会長
　ありがとうございました。
　専門職にお任せするのではなくて、横のつながりとか、地域でのというお話を委員にはたくさんおっしゃっていただき、それは計画にも反映されていると思いますので、どうもありがとうございました。
　沼田委員、何かありましたらお願いします。
○沼田委員
　皆さん、本当にお疲れさまでした。
　このすばらしい計画ができたということで、評価も高いのではないかと思っていますが、冒頭、吉田会長からお話しされましたとおり、この計画をぜひ自分事にしていただくような施策が一番大事かなと思います。ですので、これはもう一度繰り返しになりますが、しっかり伝えていきたいのと、それから、その後が大事だということですが、引き続き、どのような形で検証するのかということも含めて見直しを図っていって、この４年間ということよりも、時代の流れが速いので、１年１年に見直しが必要な時代になっていると思いますので、

柔軟な対応をお願いしたいと思っております。
　先ほど、中村委員から話がありました幸福度指標が新しくできましたが、これについては新しいことでございますので、こうだよという県のほうからの押しつけではなくて、自分に振り返って、関心を持つということが非常に大事だと思います。その辺のＰＲの仕方とか県民への訴え方を間違うと押しつけになってしまうので、そうではなくて、自分事ということで終わってしまうというよりも、一人ひとりが確実に茨城県のためにどういった形で盛り上げていくのかということをぜひ考えていただけるよう、総合的な盛り上げる計画にしていただければと思います。
　以上でございます。
○吉田会長
　ありがとうございます。
　沼田委員は、自分事ということを何回もおっしゃっていただいたので、それがかなり浸透してきて、これが幸福度指標につながっているのかなと思いますので、どうもありがとうございました。
　今回、計画自体は、県のかなりの歴史を遡ると、これだけコンパクトにまとめたものはなかなかないのではないかと思うので、使う人は県民、あるいは職員の方でしょうけれども、非常に取り組みやすいものになったのかなと思いますが、オンラインの委員の先生方、では、ベントン副会長さん、どうですか。
○ベントン副会長
　委員の皆様、会場の皆様、職員の皆様、本当にご苦労さまでした。本当に大変だったと思います。でも、意義のある、すごく重要な会議だったと思います。
　審議会では、幸福度指標についてかなり話し合っていたのですが、日本で初めて、県が県自身の重要なことを考えて独自に指標にして、茨城県らしい指標を作って、今後それを強化して、年々の経過を見ることになると思います。県民の全てにＰＲできて、県民がそれを理解して、茨城県でもこうなっている、こう成長しているのだな、こういう感じに発展しているのですねと思えるような指標になっていると思うので、ぜひみんなでこれを一生懸命、県民のみならず、日本全国にも示していきたいと思います。
　ありがとうございます。
○吉田会長
　ありがとうございます。
　指標については、先行する指標は、日本総研とかいろいろあるでしょうけれども、かなり厳選した、数が少ないけれども、重点的なものを選んでいただいているようですので、そういう意味では、ベントン先生が言っているようなことにつながるのかなと思います。
　そのほか、オンラインの委員の方々、いかがでしょうか。
　川井委員はいかがですか。何かありましたらお願いします。
○川井委員
　今回、私は、プライベートなことも重なり、出席回数が少なくなってしまったのですが、私の参加した回のご意見も拾っていただきまして、このたび、本当にすばらしい計画がまとまったと思います。最後、県民にも伝わりやすい言葉で、指標も、県民と私たち委員や県の

皆さんとのずれの少ない、誤解を招かないような表現を選んで、細部までまとまった計画となったのではないかと思っています。

これからどんどん県民の方に、先ほど、沼田委員もおっしゃっておりましたが、自分事として捉えていただけるよう、ＰＲの仕方とか訴求の仕方を工夫していくことがこれから大事になるのかなと思います。

このたびは本当にありがとうございました。

○吉田会長

ありがとうございます。

しっかりと受け止めさせていただきました。ありがとうございます。

そのほか、オンラインの委員の先生方、ありますか。

仁衡委員が発言機会のナンバーワンということだったのですが、いかがですか。何かありましたら、最後ですから、せっかくですので、お願いします。

○仁衡委員

委員に選任いただいたからには、何かしら意見を申し上げるのが役割だと思いまして、たくさん発言させていただきました。

それに対しまして、担当課の方々が真率にご対応いただきまして、特に数値目標等に関しましては、夢のような数字というよりは、現実的な数字を指向されていることが伝わって、真摯に取り組んでいらっしゃるのだなということを感じながら委員を務めさせていただきました。

おかげさまでよい計画になったのではないかと感じております。ありがとうございました。

○吉田会長

ありがとうございます。

幸福度指標に半分以上の時間を割いてお話しいただきましたが、有賀委員は、幸福度指標について何回もご意見をいただいて、それを踏まえて事務局でも修正していましたが、有賀委員、何かありましたらお願いします。感想でも結構です。よろしくお願いします。

○有賀委員

ありがとうございます。

私も皆様とほとんど同じ意見で、この期間に幸福度指標という非常に難しいチャレンジングなテーマに取り組めたことはすばらしいことだなと思います。

今回、これは茨城県が独自に作ったものですが、全国のほかの都道府県でも適用できることなので、ぜひこのＰＲをうまくやって、茨城県の順位もそうなのですが、この指標を作ったこと自体がすばらしいことだと思うので、広まっていってほしいなと思います。

以上です。

○吉田会長

ありがとうございます。

幾つかの県はあったのですが、このように大々的に幸福度指標ということを銘打って作るのは茨城県が初めてではないかというお話がありましたが、ほかの県から注目はされていますか。それを使いたいとか、あるいは一緒に連携したいという話がもしあれば。なければ、これから作っていただければと思うのですが、何かありましたら。

○竹村計画推進課副参事
都道府県ではまだ。
○吉田会長
これから順位が発表されたりすると、なおさら関心を呼び起こすのではないかと思いますし、他県との指標の連携も大事かなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
髙田委員、感想、あるいは今後の計画運営についての注文でも結構ですが、ありましたらお願いいたします。
○髙田委員
今回の計画にいろいろな方の意見を入れていただいて、県の方に作っていただいて、非常にイラストも多くて見やすくなりましたし、表なども多用されているので、一般に広くわかりやすく仕上がってよかったなというのが感想です。
既に皆様おっしゃっていたように、幸福度指標は非常に注目度が高いですし、こういうランキングが出ると、話題としてはとても注目されやすい。そこでＰＲとしてとてもいいと思いますが、ただ、何位、何位というところで一喜一憂せず、数字だけが独り歩きする場合があるので、その裏には、こういう指標を基に作っていて、その指標に紐付いた施策があって、それがどんなふうに働いているのかという効果検証を丁寧に見ていくというところが重要かと思います。ＰＲ効果として順位も大事ですと、あとは、その裏に紐付いている施策の効果検証も非常に大事かなと思うので、とてもすばらしいものができたので、これから丁寧に見ていきながら、その都度、変更なども必要であれば、柔軟に対応していただければと思います。
以上です。
○吉田会長
ありがとうございます。
確かに、幸福度指標はこれから世の中に出ていくわけですので、その辺のうまいメッセージの出し方というか、誤解されないようにということで、よろしくお願いしたいと思います。
幸福度指標と主要指標の２つが両面から計画の基本方針に入っていますので、運用の中においても、その辺がうまく使われるとよいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
それでは、三村委員はいかがですか。感想でも注文でも結構ですが、お願いします。
○三村委員
委員の皆さんが今までお話しされた意見と同じになると思いますが、本当にしっかりとした計画がまとめられたと思います。県の方々、最後まで調整は大変だったと思いますが、本当にありがとうございます。
今後は、幸福度指標のこともありますが、実際、いい計画も絵に描いた餅で終わらないように、どう実行していくか、運用面が大事になってくると思います。僕自身も、県民の一人として、南北問題と言われる中で、南のエリアから見ると、北のエリアが厳しい状況であることは間違いないと思うのですが、幸福度指標の中でも、例えばですが、エリアで区切っていったときにも、県北が取り残されないように、微力ではありますが、運用のところでも力になれればと考えております。

本当にありがとうございました。
○吉田会長
ありがとうございます。
地域編が本体のほうに入って、うまく連携がとれるような計画になっていますので、今のご指摘も踏まえて、運用のほうを対応していただければと思います。ありがとうございます。
徳田委員、感想、あるいは何か注文があればお願いします。
○徳田委員
私も移動中ですので、聞こえづらかったら申し訳ありません。
私も、前回の計画の策定のときから委員をやらせていただいていまして、前回と比較しても、非常に中身の濃い、手触り感の高いものになったかなと思っております。
特に幸福度指標のところはいろいろと議論もしましたし、県庁の職員の皆様方は非常に努力をなさって、結果を導き出したということも認識しておりまして、いいものが仕上がったのではないかと思います。
県民の皆様が、きっと、より一層理解を深めて、「日本一、幸せな県」というところを目指していくのではないかと思いますので、私も茨城県に関わる一人として、この計画の先にいい未来が待っているということで、一緒に取組を進めていきたいと思います。
ありがとうございます。
○吉田会長
ありがとうございます。
そうすると、ご意見はほぼいただいていますかね。
一通りご意見、あるいは感想等をいただきました。
皆様方には、５回の審議会に関して、たくさんのご意見をいただきまして、県庁全体としても張り合いがあったのではないかと思います。どうもありがとうございました。
それでは、ご意見が出揃いましたが、答申(案)について、最終的な了解をいただきたいと思います。
お手元にあるような答申(案)、それから、答申(案)の鏡文もありますが、特に４つのチャレンジについて、関係各位と連携を深めて取り組んでいただきたいということと、幸福度指標が出ていますが、更なるチャレンジに向けて、県民の理解、あるいは取組を推進するような機運を醸成していただきたいということを中心に答申をさせていただきたいと思います。
答申文、あるいは全体の計画案そのものについて、これでよろしいですかね。もしよろしければ、これで了解いただいたということで、よろしいですね。ありがとうございます。
では、以上をもちまして、答申(案)そのものについては格別の異議がないということで、原案のとおり知事に答申したいと思います。
○司会(深澤計画推進課長)
ご審議ありがとうございました。
それでは、間もなく知事が入場いたしますので、しばらくお待ちください。
それでは、吉田会長から、大井川知事に答申を手渡していただきたいと思います。
〔知事に答申書手交〕
○吉田会長

答申いたします。
令和３年10月28日付けで本審議会に諮問のありました本件につきましては、このような形にまとまりましたので、答申いたします。
特に、大井川知事はじめ県の皆様方につきましては、関係各位との連携を深めて、４つのチャレンジというのは県民にも非常に浸透してきましたので、これを加速させていただければと思います。
それから、今回、新しく幸福度指標を打ち立てましたが、これについては、県民の理解を深めていただくとともに、県民が自分事として感じてチャレンジに取り組むような機運を醸成していただきまして、広く発信していただければと思います。
以上です。どうぞよろしくお願いいたします。
○大井川知事
ありがとうございます。
○司会(深澤計画推進課長)
それでは、ここで、大井川知事からご挨拶を申し上げます。
○大井川知事
ただいま、吉田会長から茨城県総合計画の答申をいただきました。ありがとうございます。
委員の皆様には、昨年10月から半年間、大変ご熱心なご審議を賜りましたこと、本当に厚く御礼を申し上げます。
また、コロナ禍の中で、オンラインでの出席も交えた議論、あるいは、審議会の場にとどまらず、メーリングリストでも様々な審議をしていただいたということでございまして、大変熱心な審議が行われたということで、改めて感謝を申し上げる次第でございます。
本日いただきました答申は、現行計画の基本理念を継承しつつ、本県の幸福度を見える化する、いばらき幸福度指標を新たに位置付けていただきました。本指標は、政策の成果の確認や今後の方向性の検討に活用するとともに、社会情勢の変化に応じ、柔軟に見直しを行うなど、適切な運用を心掛けてまいりたいと思います。
また、予測困難な「非連続の時代」の中で、大きな環境変化の対応についても盛り込んでいただきました。私は、この「非連続の時代」は様々な困難がございますが、またとないチャンスでもあると考えております。10年後、20年後の茨城を見据え、いかに自分たちを差別化していくかというようなことも非常に重要であると考えております。
企業誘致、県産品のブランド化、様々な挑戦をしながら、未来を担う人財の育成、あるいは医療・福祉といった生活基盤の充実などをしっかりと図っていきたいと思います。
また、カーボンニュートラルなど、新しい課題に対する対応においても、他県に先駆けてしっかりと先手先手の取組を集中的な視点を持って行ってまいりたいと思います。
引き続き、４つの指標、「豊かさ」、「安心安全」、「人財育成」、「夢・希望」を進めながら全力で取り組んでまいりたいと思います。
また、先ほど吉田会長からもお話がございましたように、幸福度指標も含めて、県民に対してしっかり浸透するような取組を今後さらに強化していきたいと思っています。
今回の新しい県総合計画をきっかけに、さらに県民の皆様が、より県の将来に対して、希望を持って、課題を認識して、しっかり前に進めるような県の行政を実現していきたいと思

います。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願いします。

誠にありがとうございました。

○司会（深澤計画推進課長）

以上をもちまして、本日の総合計画審議会を閉会いたします。

長きにわたりまして、ありがとうございました。